

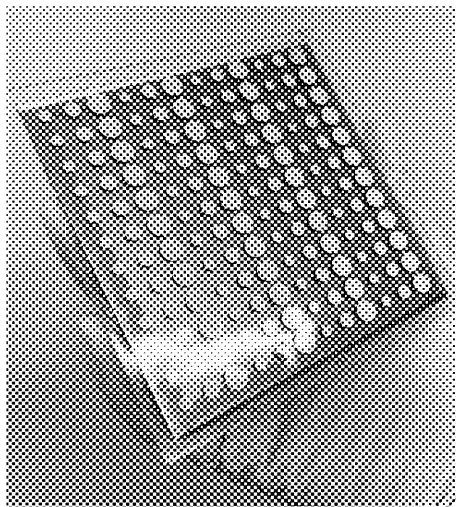
研究開発 の道案内 KRIの挑戦

4

次世代通信技術見据え

023年には通信技術 に対し、必要以上の情 関連の強化を目的に、 報を提供しながらな 同センターの下に「オ い。ビジネスの領域を プトエレクトロニクス 侵食されてしまうとい 研究室」を新設。現在の う恐れが多少なりとも 第5世代通信(5G) あるからだ。そのた に次ぐ「ビヨンド5G」 め、材料メーカーはデ を見据え、材料やデバ バイスメーカーの真意 イスの研究開発を業界 が分からないまま、求 横断で加速している。 められた品質や性能の 通信技術は化学と物 材料を納入することに 理の領域の融合が重要 なる。研究開発におい て非効率な面があるこ とは否めない。

受託研究開発を手が けるKRI(京都市下 京区、川崎真一社長) では、スマートマテリ アル研究センターが材 料分野を担当する。2 は川上の材料メーカー



また大手通信事業者 ニクス研究室の庄所大 でも、川上の材料メー 策室長は「当社がハブ カーの情報を把握しき 的な存在となること ではないとも言われ ている。開発速度を上げて いく。日本がグローバ 技術となるのは間違い

材料・デバイス分野融合

オプトエレクトロニク ス研究室はビヨンド5 G向けの「メタサーフ エス反射板」の試作な どに取り組んでいる

▲ だが、KRIの事業は だ。 KRIは長らく、特 受託研究開発であり、 定の分野に強い研究者 あくまで裏方だ。試作 が一匹おおかみの は手がけても、量産す ように独自に顧客企業 するのは顧客企業。KR とやりとりする形で研 Iがメーカーになるわ 究を進めてきた。ただ けではない。川崎社長 近年は企業の商品サイ は目指す姿を「研究開 題解決を両立する「ソ ンクルが短くなり、モ 発のシエルパ」と表現 サエティ5・0」の ノ売りからコト売 するが、言い得て妙 時代に向けて、通信イ りへのシフトも進 だ。グローバルで受託 ンフラはより不可欠な る。そこで生き残るに 研究開発の市場が拡大 は、顧客企業の経営層 する中、海外案件の増 にまで、アプローチを 加も期待される。独自 広げないといけない。 の存在感を發揮しなが そのために今後は、調 ら、これからも多くの 整役を担える専門人材 企業を支えていく。